

# GL Sciences

第45期報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日



**Global Solution**



# To Our Shareholders

## 株主の皆様へ

平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第45期（平成23年4月1日～平成24年3月31日）の営業の概況などにつきましてご報告申し上げます。

当社は「社会に対し社会性を充分発揮してその存在価値を高め、社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持・発展をならしめること」を根本精神としており、この根本精神を実現させるために創立以来每期、付加価値経営計画を策定し、これに沿った活動を展開しております。

また、企業活動の結果、得られた利益を株主、社員、社会に公平に分配するだけでなく、一部を社内留保して会社の事業内容の充実・発展に役立てることが最大の社会性を意味すると考えております。

この考えに則り、当事業年度におきましては株主の皆様への配当を1株当たり30円とさせていただきました。

今後につきましても引き続き不透明かつ厳しい経営環境が予想されますが、新しい人事制度導入等により社員のモチベーションを高めていくとともに、

お客様のニーズに合った製品の開発と効率的な営業活動をより一層強化して、業績の向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解の上、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月



取締役社長

外丸 勝彦

# Financial Highlights

## 業績ハイライト(連結)



(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:円・銭)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

	第41期 平成20年3月	第42期 平成21年3月	第43期 平成22年3月	第44期 平成23年3月	第45期 平成24年3月
売上高 (百万円)	18,537	16,323	15,679	16,217	16,509
経常利益 (百万円)	698	257	300	750	969
当期純利益 (百万円)	572	△152	190	371	609
1株当たり当期純利益 (円・銭)	102.61	△27.99	37.16	72.45	118.87
総資産 (百万円)	23,389	21,421	22,040	21,994	22,888
自己資本 (百万円)	13,686	12,659	12,627	12,715	13,219

# Operations Review

## 当期連結業績の概要

### ■ 当期の概要

---

当連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞から、復興が進むにつれ徐々に明るい兆しが見えてまいりましたが、欧州の財政・金融不安による世界経済の減速懸念の高まりや円高、株価の低迷が長期化し、先行きの不透明感は払拭されない状況で推移しました。

このような経済環境のもと、当連結会計年度の売上高は、分析機器事業の装置販売が伸び、半導体事業、自動認識事業はともに前連結会計年度をわずかに下回り、16,509百万円（前連結会計年度比 1.8%増）となりました。

損益につきましては、分析機器事業の増収による増益や、半導体事業での原価率の低減などにより、営業利益は 943百万円（前連結会計年度比 27.9%増）、経常利益は 969百万円（前連結会計年度比 29.2%増）、当期純利益は 609百万円（前連結会計年度比 64.1%増）と、前連結会計年度からは改善されましたが、本格的な業績回復までには至りませんでした。

## ■セグメント別概要

### ●分析機器事業

自社製品の拡販を図り、主要な製品群でチームを編成し、プロモーション活動やマーケティング活動を行いました。また、シーズン毎に自社製品と他社商品の重点販売品目を掲げ、キャンペーン活動を積極的に展開しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は11,230百万円（前連結会計年度比3.3%増）、営業利益は487百万円（前連結会計年度比17.4%増）となりました。

### ●自動認識事業

震災の影響等厳しい経済環境により、出荷数量が減少したり、売上単価の低減を強いられました。

機器組込型モジュールは新製品投入やアミューズメント関連特需がありましたが前年を上回ることができませんでした。完成系製品は重点的に拡販に注力したことで前年を若干上回りました。

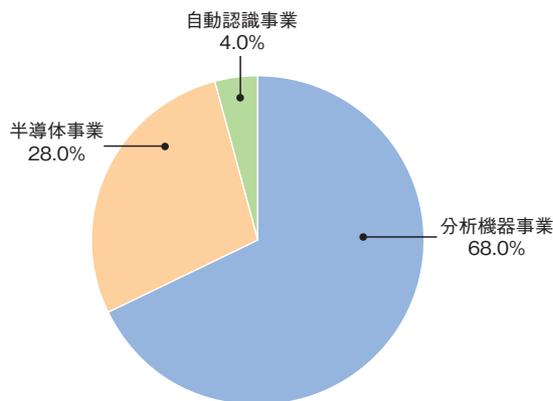
この結果、当連結会計年度の売上高は665百万円（前連結会計年度比1.4%減）、営業利益は8百万円（前連結会計年度は営業損失15百万円）となりました。

### ●半導体事業

設備投資が旺盛なアジア市場を中心に外需の取り込みを図るとともに、国内市場では新たな需要の掘り起しにも注力しました。第1四半期は豊富な受注残を背景に売上高、利益ともに好調に推移しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は4,613百万円（前連結会計年度比1.3%減）、営業利益は436百万円（前連結会計年度比29.0%増）となりました。

セグメント別売上構成比



## ■次期の業績見通し

### (分析機器事業)

消耗品では引き続き「イナートファミリー」をはじめとする自社製品の拡販と、多様化した顧客ニーズに対応した他社商品の販売も進めてまいります。

### (半導体事業)

半導体の需給バランスは、パソコンやデジタル家電は売上不振が続くものの、スマートフォン等モバイル端末は引続き好調を維持するものと思われ、自動車関連にも需要の回復が期待されております。

### (自動認識事業)

新製品「XP35C6シリーズ」は、柔軟なアプリケーション開発が可能のため、ソフト開発会社との連携により、様々なエンドユーザーの要望に対応することができ、業績に貢献できるものと考えております。

平成25年3月期の連結業績及び単独業績の見通しにつきましては、それぞれ次のとおりです。

### (連結業績の見通し)

売上高	17,199百万円	(前連結会計年度比 4.2%増)
営業利益	833百万円	(前連結会計年度比 11.7%減)
経常利益	828百万円	(前連結会計年度比 14.5%減)
当期純利益	503百万円	(前連結会計年度比 17.4%減)

### (単独業績の見通し)

売上高	12,300百万円	(前期比 5.1%増)
営業利益	525百万円	(前期比 21.1%増)
経常利益	569百万円	(前期比 13.5%増)
当期純利益	352百万円	(前期比 2.0%増)

# Approach to the Environment

## 環境への取り組み

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、環境負荷低減の取り組みが企業の継続及び発展にとっても必要不可欠であることを認識し、環境保全に配慮した企業活動を通じてより良い社会の実現に貢献します。

### ■製品を通じた環境貢献

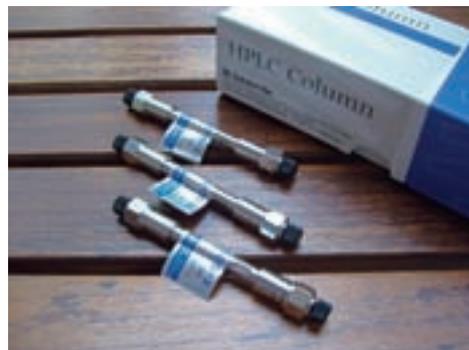
当社はクロマトグラフィー関連の消耗品を多く取り扱っておりますが、環境に配慮した製品の開発・販売にも努力をしております。例えば下記に取り上げたような製品群を使用いただくことによって環境負荷を低減することができます。なお、その販売数や既存製品に占める割合は増加傾向にあります。

- 従来の分析法では、前処理の段階で多量の溶媒を使用していたものを、当社の取扱製品である固相抽出カートリッジを使用した分析法に切り替えることにより、溶媒使用量の削減に貢献いたします。
- 液体クロマトグラフ（LC）の分析で使用するカラムにおいては、使用溶媒が少なく済むカラム内径の細い“セミマイクロLCカラム”や、使用溶媒が少なく、分析時間を短縮してエネルギーの削減に貢献する“UHPLC対応カラム”及び“MonoCap”など、環境に配慮した製品の販売に努力しております。

—固相抽出関連製品—



—環境にやさしいHPLCカラム—



### 分析機器事業

#### 試料前処理 インストルメンツ&ソフト・パーツ

GCやLC（後述）の機器分析装置、特にGC/MS、LC/MSにおいての高感度化は、分析基準値の見直し要求に準拠し、近年数段の進展を見せております。その装置感度の向上に不可欠な技術が分析試料の前処理・濃縮導入技術になります。高感度分析装置に分析試料を導入する際、ターゲット成分の濃縮ができれば、分析可能な低濃度試料の領域が無限大に広がっていきます。

弊社の長年にわたり培った技術により構築した豊富な前処理メソッドを、分析オペレータ及び分析装置メーカーに提供しており、極めて高い評価をいただいております。環境水質基準検査法、水道水質基準検査法に盛り込まれた塩化ビニルモノマーを含むVOC（揮発性有機化合物）及び農薬分析用に販売されている「AQUA PT5000J PLUS」・「AQUA Trace ASPE799」は、引き続き重要な製品群として位置付けられております。

水質分析における試料前処理に有効な「固相加圧送液装置AQUALoaderⅢ」をラインアップしており、さらなるニーズへの対応に心がけています。

装置販売に限らず、装置同様に高度の知見を必要とする消耗製品群で、弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートセップ」は、多様化するニーズ・環境水質市場・食品市場をターゲットに、新製品を開発・発売し、一段の売上増を進めております。



全自動固相抽出装置 AQUA Trace® ASPE799



前処理固相抽出カートリッジ InertSep®シリーズ

## ガスクロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

ガスクロマトグラフ (GC) は、試料を気化して分離・定量する分析法で、ガス成分分析から溶剤等の気化しやすい成分群の分析に適しています。その特長により、素材等の成分分析から水質・大気・土壌等の環境分析に大いに利用されております。特に弊社製品は日本の環境行政に適応・貢献すべく、年々基準値が見直されている公定分析法にも迅速に対応しております。

弊社は、「GC-4000シリーズ」を発売後、周辺装置群にも力を入れ、高感度・軽量化・高安定性を実現したリークディテクター「LD239」、小型設計・広い流量レンジのデジタルフローメーター「GLF-1000」の開発を行いました。GC本体のラインアップ、その他周辺装置を充実させ、お客様のさらなるニーズをサポートしております。



リークディテクター  
LD239

デジタルフローメーター  
GLF-1000



GCキャピラリーカラム InertCap® シリーズ



シリカモノリス捕集剤 MonoTrap®

香気成分をターゲットとし、食品・環境における簡易濃縮分析やスクリーニング分析用として、弊社が誇るモノリス技術を利用した「MonoTrap (モノトラップ)」を発売しており、お客様のニーズに合わせた安価で手軽な濃縮分析を可能にしました。

弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートキャップ」は、多くのラインアップを取り揃え、また、MonoTrapとのタイアップにより、安定した品質、供給で一段の売上増を進めております。

## 液体クロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

液体クロマトグラフ（LC）は、試料を液体の状態にて分離・定量する分析法で、GC分析ではカバーしきれない沸点の高い化合物の分析等に適しています。化合物の多くがLCに適しており、食品・製薬・バイオなどの分野で用いられています。研究施設に設備される分析機器導入伸び率もLC・LC/MS・LC/MS/MSは極めて高く、需要層もバイオ・ライフサイエンス市場を筆頭に近年、高性能自動分析装置の需要が強く、弊社においてもその要求に応えられる装置を取り揃えております。

弊社では、LC分析の試料移送のキャリア流量に合わせて多種類の装置群を開発し、もっとも需要が多い汎用HPLCや、高速・高分離・高感度を実現した一体型HPLC「Smart HPLC システム LC800」をラインアップしております。また、LCで使用するカラムとして、不活性と耐久性を兼ね備えたファーストチョイスカラムとして最適な「Inert Sustain C18」をラインアップしております。



Smart HPLC システム LC800



InertSustain® C18

## 自動認識事業

### インテリジェントターミナル XP35C6シリーズ

Windows CEを搭載し、プログラマブルなICカードリーダ内蔵コントローラ「XPC100シリーズ」の普及モデルとして、小型、軽量、安価な「XP35C6シリーズ」を開発・提供開始いたしました。

建築用標準基材である2個用スイッチボックスに埋め込み設置可能な大きさ（126×145mm）と、多面レンズで多方向からも確認できるLED表示によるスタイリッシュなデザインとなっております。

アプリケーション開発により、さまざまな応用が可能であり、入室管理用多機能リーダ、出席管理端末用リーダ、また、新たな広告宣伝の一端を担うデジタルサイネージ端末として、汎用性の高いコントローラとして利用できるものと考えております。



新製品 XP35C6

### 化学物質総合管理システムの新販売形態の模索

化学物質総合管理システムはRFID技術を利用し、誰が、いつ、どの化学薬品を、何の目的で、どれだけの量を使用したのかを容易に把握・管理するものです。NPO法人 教育研究機関化学物質管理ネットワークから得た情報を基に、当システムの新たな販売形態を検討してまいります。

管理サーバをレンタルサーバにしてクラウド化することでシステム導入時の費用を低減し、当システムの普及を図るとともに、情報提供サービス契約を締結することにより、定期的なサービス料受領の仕組みづくりを模索します。



化学物質総合管理システム  
RFID対応電子天秤

### UHF帯域機器ビジネスへの参入

UHF帯域の機器はこれまで流通業界を中心に研究が進められ、さらにIT化、自動化、省力化を図るためにも欠かせないものとして注目されておりましたが、技術的な課題や法規制の問題もあり、普及には至っておりませんでした。しかし、今年7月に電波法の改正が予定されており、規制緩和が行われることや、中国でこれらの技術が広く展開していく動きとなっており、当事業としてもこの帯域への参入を図っていく必要性が出てきております。

まずはUHF帯域機器に造詣の深い企業との協力関係を築きながら営業展開を開始してまいります。



UHF帯域対応モジュール

# Consolidated Financial Statements

## 連結財務諸表

### ●連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期 (23.3.31現在)	当期 (24.3.31現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	13,027	14,359
現金及び預金	3,813	4,665
受取手形及び売掛金	5,355	5,930
有価証券	80	60
たな卸資産	3,450	3,351
繰延税金資産	209	273
その他	134	89
貸倒引当金	△ 16	△ 11
固定資産	8,967	8,528
有形固定資産	7,426	7,225
建物及び構築物	2,738	2,597
機械装置及び運搬具	1,060	877
土地	3,300	3,300
建設仮勘定	35	160
その他	291	289
無形固定資産	88	79
投資その他の資産	1,452	1,223
投資有価証券	705	679
その他	754	547
貸倒引当金	△ 8	△ 2
資産合計	21,994	22,888

	前期 (23.3.31現在)	当期 (24.3.31現在)
<b>負債の部</b>		
流動負債	5,357	6,231
支払手形及び買掛金	2,075	2,355
短期借入金	2,367	2,730
未払法人税等	117	190
未払消費税等	13	38
賞与引当金	350	399
その他	432	515
固定負債	2,222	1,615
長期借入金	1,431	891
再評価に係る繰延税金負債	128	112
退職給付引当金	308	339
役員退職慰労引当金	68	82
資産除去債務	3	3
その他	282	185
負債合計	7,580	7,846
<b>純資産の部</b>		
株主資本	13,294	13,750
資本金	1,207	1,207
資本剰余金	1,819	1,819
利益剰余金	10,776	11,232
自己株式	△ 508	△ 508
その他の包括利益累計額	△ 579	△ 531
その他有価証券評価差額金	△ 14	△ 9
繰延ヘッジ損益	△ 134	△ 103
土地再評価差額金	△ 346	△ 330
為替換算調整勘定	△ 83	△ 87
少数株主持分	1,698	1,823
純資産合計	14,414	15,042
負債純資産合計	21,994	22,888

## ●連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 (22.4.1～23.3.31)	当期 (23.4.1～24.3.31)
売上高	16,217	16,509
売上原価	10,854	11,033
売上総利益	5,363	5,475
販売費及び一般管理費	4,625	4,532
営業利益	737	943
営業外収益	115	106
営業外費用	102	80
経常利益	750	969
特別利益	27	0
特別損失	132	15
税金等調整前当期純利益	645	953
法人税、住民税及び事業税	112	265
法人税等調整額	71	△ 69
少数株主損益調整前当期純利益	461	757
少数株主利益	89	147
当期純利益	371	609

## ●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 (22.4.1～23.3.31)	当期 (23.4.1～24.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	832	1,474
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 444	△ 414
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 78	△ 370
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 15	△ 36
現金及び現金同等物の増加額	294	652
現金及び現金同等物の期首残高	2,013	2,307
現金及び現金同等物の期末残高	2,307	2,960

## ●連結株主資本等変動計算書

当期 (23.4.1～24.3.31)

(単位：百万円)

	株主資本						その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,207	1,819	10,776	△ 508	13,294	△ 14	△ 134	△ 346	△ 83	△ 579	1,698	14,414	
連結会計年度中の変動額													
剰余金の配当	—	—	△ 153	—	△ 153	—	—	—	—	—	—	△ 153	
当期純利益	—	—	609	—	609	—	—	—	—	—	—	609	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	4	31	16	△ 4	47	124	172	
連結会計年度中の変動額合計	—	—	455	—	455	4	31	16	△ 4	47	124	628	
当期末残高	1,207	1,819	11,232	△ 508	13,750	△ 9	△ 103	△ 330	△ 87	△ 531	1,823	15,042	

# Company Profile

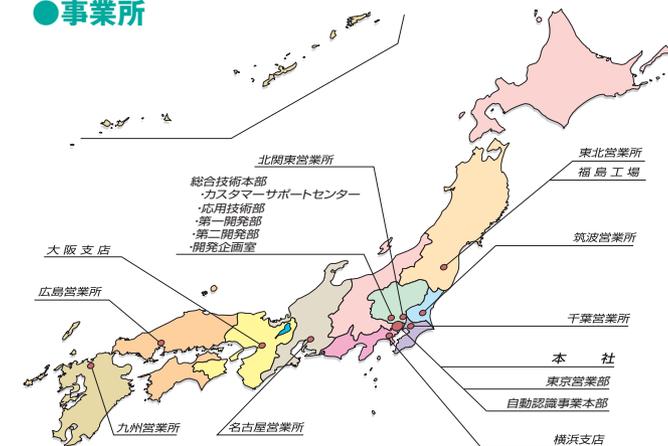
## 会社の概況 (平成24年3月31日現在)

●商号	ジーエルサイエンス株式会社
●証券コード	7705 (東証第二部)
●本社所在地	東京都新宿区西新宿六丁目22番1号
●設立	昭和43年2月1日
●資本金	1,207,795千円
●役員	取締役社長 外丸 勝彦 常務取締役 高橋 良彰 常務取締役 大場 春祥 取締役 橋詰 博文 取締役 奥山 雅司 常勤監査役 野口 一英 監査役 田村 紀彦 監査役 籠原 一晃 監査役 秋元 民也

●従業員数	418名
●主な事業	・ガスクロマトグラフィー／液体クロマトグラフィー 装置・前処理装置・部品・充填剤・分析カラム・固相・周辺機器 ・分光光度計用セル、石英加工品 ・半導体関連分析装置 ・バイオ機器・部品 ・非接触ICカード、リーダライタ ・その他すべての関連製品

●関係会社	テクノクオーツ株式会社 株式会社グロース 杭州泰谷諾石英有限公司 (中国) ATAS GL International B.V. (オランダ) GL Sciences, Inc. (米国) 島津技迹(上海)商貿有限公司
-------	--

## ●事業所



(平成24年6月22日現在)

## ●当社のホームページ <http://www.gls.co.jp>



## ●株式の状況

発行可能株式総数	22,380,000株
発行済株式の総数	5,130,169株 (自己株式464,831株を除く)
株主数	1,287名

## ●大株主（自己株式を除く）

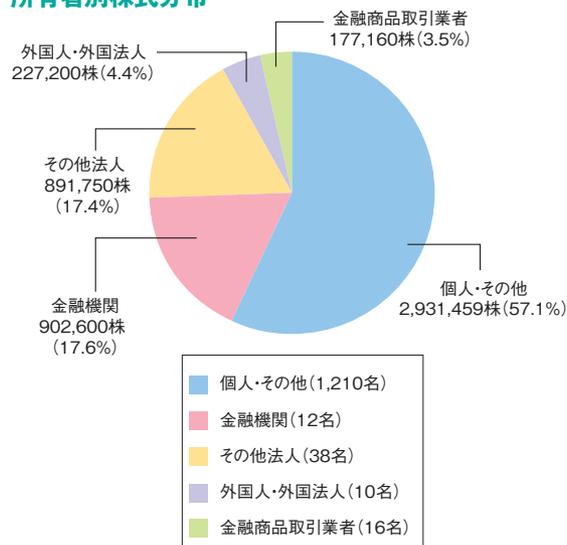
株主名	持株数	持株比率
ジーエルサイエンス従業員持株会	697,786株	13.6%
株式会社島津製作所	290,000株	5.7%
森 禮子	253,047株	4.9%
株式会社三菱東京UFJ銀行	249,100株	4.9%
株式会社山口銀行	248,000株	4.8%
株式会社みなと銀行	222,000株	4.3%
東京中小企業投資育成株式会社	212,850株	4.1%
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン	200,000株	3.9%
クレディ・スイス・セキュリティーズ（ヨーロッパ）リミテッド ビービーセックイントノンテアーアルクライアント	137,200株	2.7%
矢部昭三	135,400株	2.6%

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

## ●所有者別株式分布（自己株式を除く）

順位	株主名	持株数	持株比率
1	個人・その他(1,210名)	2,931,459株	57.1%
2	金融機関(12名)	902,600株	17.6%
3	その他法人(38名)	891,750株	17.4%
4	外国人・外国法人(10名)	227,200株	4.4%
5	金融商品取引業者(16名)	177,160株	3.5%
	合計	5,130,169株	100.0%

### 所有者別株式分布



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会議決権行使 株主確定日	毎年3月31日
期末配当金支払 株主確定日	毎年3月31日（中間配当は行っておりません。）
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.gls.co.jp">http://www.gls.co.jp</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

